

中央区内景気動向調査

平成 29 年 12 月調査結果

平成 30 年 1 月 22 日

中央区

総 括

平成 29 年 12 月の動き

中央区内における 12 月の現状判断 D I は合計で 54.5 と、前回調査から 1.4 ポイント上昇している。景気の先行き判断 D I は合計で 51.0 と前回調査から 3.6 ポイント低下している。

図表 景気の現状判断 D I、先行き判断 D I（合計）

(D I)	平成29年			前回調査 からの変化
	8月	10月	12月	
合計				
現状判断 D I	50.5	53.1	54.5	(1.4)
先行き判断 D I	54.2	54.6	51.0	(-3.6)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した50人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年6回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約1週間で、平成29年12月調査の調査票発送は12月7日（木）、回答期限は12月15日（金）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体50名に対し、有効回答客体は50名、有効回答率は100.0%であった。

7 DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DIを算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断DIは合計で51.0と前回調査から3.6ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連DIは55.0と、前回調査から3.0ポイント低下し、企業動向関連DIは47.0と、前回調査から4.0ポイント低下している。構成比では、「やや悪くなる」と回答した人の割合が7.7ポイント増加し、「変わらない」と回答した人の割合が2.9ポイント減少した。

図表2-1 各分野における景気の先行き判断DIの推移表

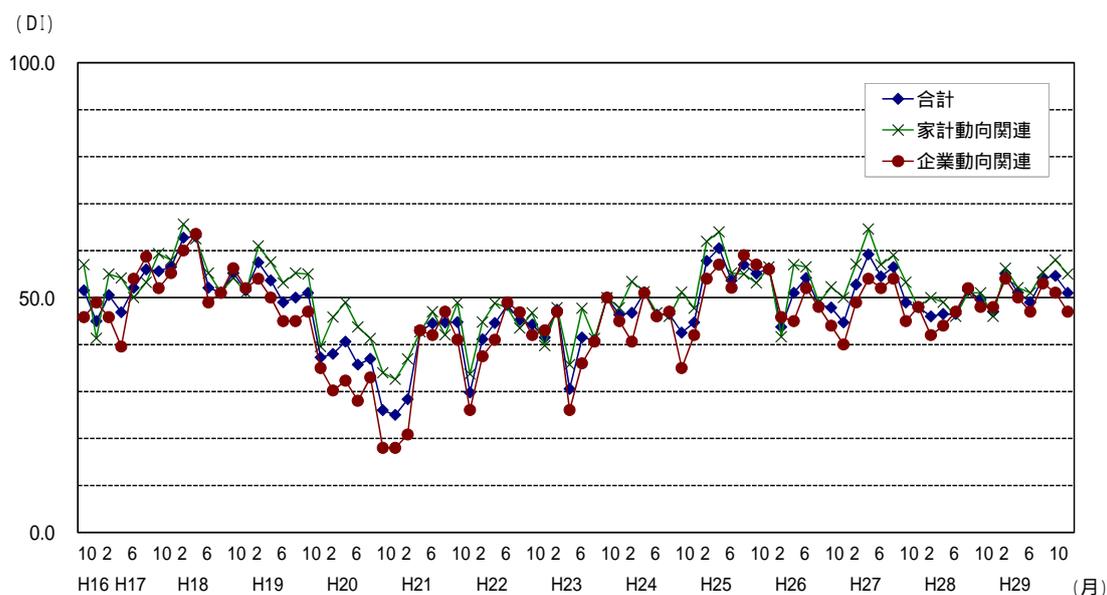
(DI)	平成29年			
	8月	10月	12月	(変化幅)
合計	54.2	54.6	51.0	(-3.6)
家計動向関連	55.4	58.0	55.0	(-3.0)
小売関連	56.3	57.1	55.4	(-1.7)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	53.6	53.6	60.7	(7.1)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	53.0	51.0	47.0	(-4.0)
製造業	45.0	50.0	40.0	(-10.0)
非製造業	55.0	51.3	48.8	(-2.5)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2-2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
平成29年	8	4.2%	27.1%	52.1%	14.6%	2.1%
	10	4.1%	30.6%	46.9%	16.3%	2.0%
	12	2.0%	28.0%	44.0%	24.0%	2.0%
(変化幅)		(-2.1)	(-2.6)	(-2.9)	(7.7)	(0.0)

図表2-3 各分野における景気の先行き判断DIの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

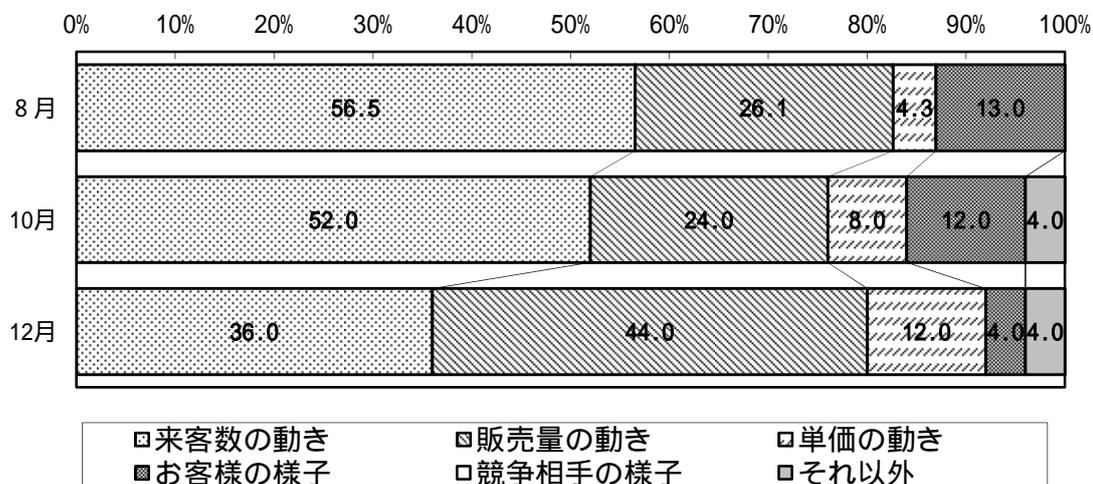
(D I)	平成29年		
	8月	10月	12月
合計	47.9	52.0	53.5
家計動向関連	46.7	53.0	57.0
小売関連	50.0	57.1	57.1
飲食関連	-	-	-
サービス関連	46.4	60.7	64.3
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	49.0	51.0	50.0
製造業	45.0	50.0	40.0
非製造業	50.0	51.3	52.5

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

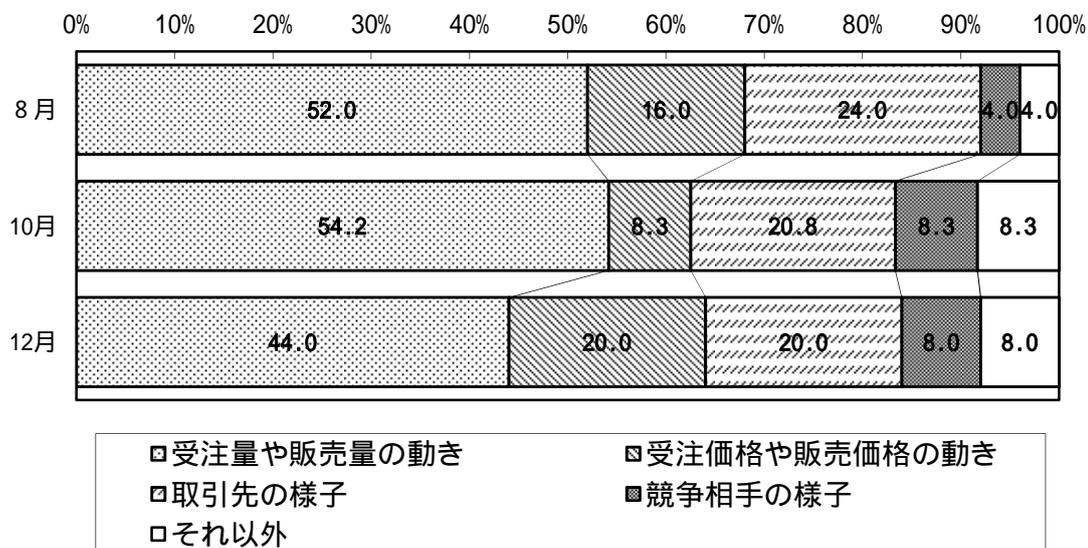
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	一般小売店〔文具〕(販売担当)	販売量の動き	・年末商材、手帳、カレンダー、年賀はがきの販売量は前年以上である。客単価も上昇している。
	やや良くなっている	百貨店(総務担当)	販売量の動き	・高額品、免税売上が伸長したほか、気温の低下もあり、コートをはじめとした重衣料が好調に推移している。
		百貨店(広報担当)	販売量の動き	・高級ブランドの冬物コートの売上が好調である。10月から現在までプラス基調が続いており、数量ベースで2けた近い伸びとなっている。
		百貨店(総務経理担当)	来客数の動き	・来客数が伸びており、繁忙期は上向くと期待している。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・近隣の土地の宅地化により、入居が進み、商圏内の人口が増えている。
		衣料品専門店(店長)	販売量の動き	・実売期を経て、買上率が上昇し、販売増につながっている。
		高級レストラン(副店長)	来客数の動き	・前年より宴会状況が良い。
		都市型ホテル(経営者)	来客数の動き	・職種上、訪日外国人客が多くなっており、業績は悪くない。
	変わらない	一般小売店〔事務用品〕(営業担当)	販売量の動き	・景気が良いと言われている割には動きが良くない。年末にかけて販売量は前月比10%減と見込んでいる。
		百貨店(総務担当)	それ以外	・冬らしい気候も加勢し、防寒衣料等、今売るべき物がきちんと売れている。
		衣料品専門店(店長)	単価の動き	・今月も国内客が減り、訪日外国人観光客は増える傾向にある。トータルでの来客数は106%と増加しているが、単価が低下しているため、売上はそれほど伸びていない。
		高級レストラン(経営者)	単価の動き	・今月は忘年会シーズンでもあり、宴会の予約は圧倒的に多いが、前年末と比べると少人数化している。また、例年であれば1.5回転ほどの来客を見込めたが、今年は1回転がほとんどである。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・時期的に年末商戦に入っているが、販売数の顕著な伸びはみられない。
	やや悪くなっている	その他レジャー施設(経営者)	来客数の動き	・昔なら、年末年始は来客が多くて困るくらいだったが、最近は若年層は来ないし、高齢者中心の営業なので前年とさほど変わらない。
一般レストラン(経営者)		来客数の動き	・9月までは忙しかったが、10月に入ってから週末には必ず天候が悪化し、来客数が減ってきている。それ以降あまり良くなっていない。	
悪くなっている				
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・前年同月比で売上はやや上向いている。
		通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・概ね横ばいで推移している。
		不動産業(企画担当)	受注価格や販売価格の動き	・オフィスの需給バランスはひっ迫した状況が続いており、新規募集賃料の上昇や既存テナントとの増額改定が続いている。
		卸売業〔機械器具〕(営業担当)	取引先の様子	・受注済の商品を今月から来月にかけて納入する予定なので、売上が確保できる。
		その他サービス業〔造園・園芸〕(営業担当)	受注量や販売量の動き	・クリスマス、正月に向け、装飾の注文が多くなっている。
	変わらない	出版業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・雑誌、書籍は依然として販売が低迷しており、雑誌広告も金額、件数共に前年同期比で減少傾向にある。
		建設業(営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・受注価格が下がっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		建設業（経営者）	それ以外	・当社の銀行担当者からの情報による。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・10月の天候不順は影響が大きかった。本来は売上の良い時期に厳しい結果となり、現在もそれが続いている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・再開発地域が予定地域も含めて拡大している。閉店した店の客が他店に流れているだけで、全体の客足には変化がみられない。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・例年どおりの価格で依頼される案件がまだにある。今後、最低賃金の上昇も踏まえた価格でもらえる案件が増えれば、変動が見込める。
	やや悪くなっている	出版業（経営者）	それ以外	・街角景気はやや悪くなっている。特に、零細商店は厳しい。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	競争相手の様子	・同業でも取扱品によって動きが全然違っているようである。
	悪くなっている	-	-	-

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般小売店〔文具〕 (販売担当)	・訪日外国人客の買上率が上昇している。株価の安定により消費マインドも上向いている。
		一般小売店〔事務用品〕 (営業担当)	・年度末の需要を見込めば良くなるが、前年と比べてどうか問題である。
		百貨店(総務担当)	・免税売上の伸長と、株高による資産効果の影響などが考えられる。
		百貨店(広報担当)	・足元では主力の衣料品が復調し、宝飾品や冬物雑貨と併せて売上がけん引している。気温も平年並みかやや低めで推移するほか、円安株高傾向の長期化も、トレンドの維持につながる。
		スーパー(店長)	・今後も商圏内の人口が増えていく状況は続く。
		都市型ホテル(経営者)	・日本経済もいまだ盤石ではなく、海外その他の要因に左右されることがあり、予断を許さない。
		旅行代理店(支店長)	・年明けより本格的に2018年度の旅行パッケージが発売されるので、先行の予約が入り、今よりは景気が上向きになる。
	変わらない	競馬場(職員)	・競馬に興味を持っているビギナー客が増えている。
		一般小売店〔靴〕(店長)	・割り引きイベントで集客はできるが、イベントがないと来客数が極端に少なくなる。
		一般小売店〔食品〕(店長)	・人材不足のため、自家製品の増量が難しく、残念ながら大型注文を断ったりと、売上に伸びがない。
		百貨店(総務担当)	・現在、好調な購買行動が続いているため、北朝鮮問題等の地政学リスクやアクシデントさえなければ、年末年始も好調なまま推移する。
		コンビニ(店長)	・築地移転も含め、様々な事柄に停滞感があり、景気に大きな変化はない。
		衣料品専門店(店長)	・前年と比べても、なかなか厳しい状況は変わらない。
		高級レストラン(副店長)	・客の様子や来客数などを考えると悪くはない。
		一般レストラン(経営者)	・今は先が読めないので分からない。
		一般レストラン(経営者)	・依然として来客の動き、販売額に変化がみられず、これからも良くなるとはあまり考えられない。時期的なこともあり、今月だけは良くなると思うが、1月以降は下降傾向に変わる。
		通信会社(営業担当)	・各分野に東京オリンピック景気がみられているようだが、全体の景気の底上げにはまだ至っていない。
		その他レジャー施設(経営者)	・客層に変わりがなく、大きな変化はない。
		やや悪くなる	百貨店(総務経理担当)
高級レストラン(経営者)	・12月は特別なため比較するのは難しいが、単純に例年同時期と比べても良くなるとは思えない。その理由は、客単価の低い飲食店が増加し、街全体が煩雑化傾向にあるためである。また、法人関係の利用に対し、個人若年層の利用が多くなっている。		
通信会社(営業担当)	・年末商戦が終わり、買い渋りが発生するのではないかとみている。		
悪くなる	一般小売店〔和菓子〕(経営者)	・忘年会シーズンに入ったが、例年よりも来客数が減少している。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	印刷業・製本業(営業担当)	・これから年度末にかけて、例年であれば仕事量が増える時期となる。
		輸送業(従業員)	・取引先との契約増が見込まれるので、現状よりは良くなる。
		不動産業(企画担当)	・仲介会社や各企業のファシリティ担当者との情報交換等によると、やや良くなる。
		卸売業〔食料品(鮮魚)〕(経営者)	・東京オリンピック及びパラリンピックまでは当エリアのインバウンドは続く。
		卸売業〔機械器具〕(営業担当)	・年度末に向け納入が増えることや駆け込み受注があると見込んでいる。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕(営業担当)	・年末、年度末にかけて、臨時の特別業務が増えてくると見込んでいる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	新聞業（営業担当）	・2018年2月の平昌オリンピックに向け、スポンサー企業や出場選手に関連する企業等からの広告出稿が予測されるが、大きくは期待できない。個人消費は相変わらず盛り上がりには欠け、中間層以上の所得税増税も消費者心理を冷やす懸念がある。
		建設業（経営者）	・年末年始は政府の政策も変わり映えせず、経済状況も一服の状態のまま推移する。
		通信業（営業担当）	・取引先の地銀は合併を進めている。アパレルは変わらず苦戦しているようである。各社とも固定費の削減を総務ラインから指示されているケースが多い。中堅企業から好調さは感じられない。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・前回までの回答において、半導体関連の好調な需給を理由として、やや強気の判断を行ってきたが、ここへ来て、やや頭打ちになっているように感じられる。一方で、AI関連や自動車向け精密機器については依然として需要が多いこともあり、ひとまず中立の判断としている。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・株、投信の買い越しが10月末時点で8か月連続となっているので、そろそろ横ばいになるのではないかと。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	・良くなる条件がない。
		卸売業〔機械器具〕（従業員）	・競争環境が一段と厳しくなっていると実感する。受注や利益に多少の影響が出る見込みである。
		経営コンサルタント	・飲食店は団体客が減少しつつあり、少人数のグループ化している。お酒等をあまり飲まなくなってきたため、ドリンクで単価がとれなくなってきたようである。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・人手不足で経費等が増大するなか、現状維持が精一杯である。
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・装飾の注文は今がピークであり、今後は下がることが予想されるが、官公庁については年度末の工事の受注が見込めるため、しばらくは今の調子で仕事がある。
	やや悪くなる	出版業（経営者）	・大型店の進出、インターネット通販の広がり、人手不足、全て中小企業にはダメージとなっている。
		出版業（営業担当）	・世界情勢が不安定なため、景気の動きがどうなるのか不安である。雑誌、書籍の売上増、広告収入増を見込める要素も見当たらない。
		印刷業・製本業（経営者）	・政治や世界の景気などの不透明性等、良くなる要素より悪くなる要素のほうが多い。
		建設業（営業担当）	・受注が伸びない。
		建設業（営業担当）	・仕事が減少する。
		建設業（経営者）	・東京オリンピック景気も徐々に減速に向かい、下降しているのではないかと。
		通信業（営業担当）	・国際情勢の不安定さ、特に原油の値動きが心配である。
卸売業〔機械器具〕（経営者）	・年末年始で営業日数が少ないため、動きが悪い。		
	悪くなる	-	-

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連	小売関連	13
	商店街・一般小売店	5
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	5
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	0
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	7
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	2
	通信会社社員	2
	レジャー施設関連	2
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	1
	その他サービス	0
	美容室経営者・従業員	0
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連	農林水産業従業者	25
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	6
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	5
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0